特定非営利活動法人　日本免疫学会

平成 28 年前期　**Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**

研究発表報告書

申請者氏名	村田　暁彦	会員番号	0030839
申請者の所属・職名	鳥取大学医学部生命科学科分子細胞生物学講座免疫学分野・助教		
出席会議名	International Congress of Immunology 2016		
発表論文タイトル	Intensity of local skin memory response varying with the types of locally persisting T cell subsets		

実施結果:

この度は、Travel Award を賜り、誠にありがとうございました。貴重な発表の機会を与えてくださった岸本忠三先生、選考委員の先生方に心より感謝申し上げます。

私は、アトピー性皮膚炎の機構に興味を抱き、鳥取大学の林眞一教授の下、炎症組織で発現が亢進する Notch ligand がマスト細胞の接着分子として機能することを、これまでに報告してきました。現在、「アトピーはなぜ同じ部位で繰り返し発症してしまうのか」という問題に取り組む中で、一度炎症を経験した皮膚は、治癒後に再度同じ抗原に曝露されたとき、初めて抗原に曝露される部位に比べ、より激しい炎症反応を呈するという現象を見いだしました。この機構の解明はまだ道半ばですが、これまでに得られた知見に関して、オーストラリアで開催された International Congress of Immunology (21-26 August 2016, Melbourne)にて、貴 Award のご支援の下、口頭発表を行いました。発表内容について、多くの先生方と議論する機会に恵まれ、多くのアドバイスや励ましのお言葉を頂きました。早く論文を仕上げ、世界に向けて発信したいという気持ちが高まりました。

また学会期間中、マスト細胞の権威であり憧れの Stephen J. Galli 先生と初めて会話をする機会を得ました。皮膚炎終息後のマスト細胞の動態に関する私のデータについて議論し、今後もメールで相談させて頂けることになりました。Juan C. Zúñiga-Pflücker 先生や穂積勝人先生とは、Notch の接着分子の機能に関して研究の相談をさせて頂くことが出来ました。他にも多くの海外と日本の先生方や若手の方と出会い、会話する機会が得られ、非常に実りある学会参加になったと感じています。

鳥取という土地柄、なかなか得られない貴重な機会を経験させて頂き、自身の科学に対する視点や世界が、より一層広がったと実感しています。本学会で得られた経験、人脈を糧に、今後も研究の発展に向け精進して参りたい所存です。

注）本報告書は手書きでなく、ワープロを使用して作成して下さい。